



ひので映画大使最新版

第26回映画大使「はやぶさ 遙かなる帰還」

期 日 平成24年2月9日(木)
 場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【ストーリー紹介】

2003年5月、鹿児島から小惑星探査機「はやぶさ」が打上げられた。目的は、小惑星「イトカワ」から石や砂を持ち帰り、太陽系や地球の起源を探る事。しかし、この世界初の試みには幾多の苦難が降りかかる。エンジントラブルや、通信途絶による行方不明などの絶望的状况の中で、何とか「はやぶさ」を生還させようと奮起する人々。その願いは「はやぶさ」に届くのか。



(C) 2012 「はやぶさ 遙かなる帰還」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。



今回、参加された映画大使の皆さんです！

▶ 映画大使の「第一声！」

「はやぶさ」のため、必死に闘った人達の想いが伝わった！

渡辺謙さん他、キャストの演技が素晴らしかった！

宇宙は広い…と実感！

▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

あれだけのプロジェクトを成し遂げるという技術力と、綱渡りのように色々なアクシデントがあっても、チーム力でそれを乗り越えていったという所に非常に感動しました。以前、町民大学でJAXAの先生の話をお聞きしましたし、私の知り合いも『はやぶさ』のシステムを造るのに参画していましたので、とても身近な感じで観させていただきました。特に最後にオーストラリアにカプセルを迎えに行ったJAXAの藤中(江口洋介さん)が『道が無くても、多くの人が歩いているとそこに一本の道ができる。そして今日がその日になった』という言葉が印象的でした。

Bさん

これだけの長い年月、7年余りの出来事を映画化出来たのは凄いと感心しました。是非多くの方に観ていただきたいと思いました。大勢の方の涙と最高の頭脳の結晶であり、賜物であったと感じました。もっともっとこれからも宇宙開発に私達が身近なものでありたいな、というような一面もありました。

Cさん

見始めた感じは、日本映画っぽくないなって感じがしました。『ALWAYS』のような映画だと、泣かせる場面とかが分かり易いのですが、今作は割と淡々とした流れで進んでいきましたが、観ていく内に『噛めば噛むほど味が出る』みたいな、押し付ける見せ方ではなく、自然に引き込まれていく感じがしました。登場人物の誰かを強調するのではなく、色々な人達(小さな町工場の人達など)の地味な努力にきちんとスポットライトを当てて、それが結実していった様子がよく伝わってきました。

ね。本来は専門的な世界ですが、あまり難しい描写にせず、どの職場にもあるような人間関係が描かれていて、ドラマとして分かり易かったし、共感できました。

Dさん

どちらかというと、宇宙にはあまり関心がなかったのですが、観ている内にやはり引き込まれました。みんなが一つの目的に向かっていく事は素晴らしいし、宇宙が好きで集まった人達や、携わった人達が喧嘩をしたり、地道な努力をしながら分かち合っていく姿に感動しました。

Eさん

観る前の情報で、『はやぶさ』は映画として素晴らしいと聞いていました。私の性格上、'エッそれ本当！'という気持ちで観させていただきました。宇宙科学はアメリカなど外国からの支援や他の支援などに支えられているんだと感じました。2014年には『はやぶさ2』が打ち上げられるとの事ですが、私は看護師として東北に自費で支援に行っていますが、元気一杯日本人として立ち上がるため、被災地支援も大事な事だと思います。配役がピッタリで、映画の中に没入できました。

Fさん

山口教授(渡辺謙さん)は、強引さはあるけれど、一人一人を信じている心に感動しました。皆個性的で、『はやぶさ』にあらゆる立場、角度から携わっていましたが、『はやぶさ』を愛する心は誰もが同じで、総合力があれば、一人では出来ない事も、携わった人数の何倍もの力を発揮でき、大成功へと繋がるんだと感じ、とても感動しました。井上記者(夏川結衣さん)のナレーションは私達と映画を繋ぐだけでなく、緊張をほぐしてくれて、癒されました。声も良かったです。親子の描写や、町工場のおじいちゃん(山崎努さん)も良かったし、おじいちゃんから山口教授が勇気もらったのも素晴らしかったですね。本当にドキドキ、大感動の『はやぶさ』でした。

Gさん

ニュース等で大まかな事は知っていたつもりでしたが、色々な側面や費やした時間、関わった多くの方々を知り、改めて『はやぶさ』の偉業を思い知らされました。映画を観終わって、日本人であることを誇りに感じられました。

📌 作品の内容 (印象に残ったシーンなど)

- ・『はやぶさ』と自分の会社の板挟みになりながらも、自分の信念を貫いたエンジニアの森内(吉岡秀隆さん)の姿に共感しました。
- ・このプロジェクトが成功した背景には、山口教授が相当なプレッシャーと闘いながらも、技術者+全体をまとめ、引っ張っていき力強さがあったのだと思います。こういう人がリーダーにならないと、このような事業は出来ないと思います。
- ・美談だけにするのではなく、人間臭いところもきちんと描写されていて、わざとらしさを感じなかった。
- ・多くの子供達に観て欲しいですね。特に今は理科離れが進んでいますし、科学技術の素晴らしさを知って欲しい。
- ・『はやぶさ』が還るまで7年かかりましたが、時の流れを感じさせる変化(パソコンなどの物)も細かく描かれていましたね。
- ・ロボットとか、心が無いはずの物に愛着を持って、人間みたいに扱うのは日本人ならではの感覚だと思います。だから諦めなかったのかもかもしれませんね。
- ・豪華キャストでしたが、誰かが目立つという事もなく、良かったです。
- ・辻井伸行さんの音楽も素晴らしかった。
- ・『はやぶさ』に対する、『ボロを着たマリリン・モンロー』という表現がユニークでした。(打上時は、高性能探査機の「はやぶさ」以外のものにお金をかけられなかった為、研究施設などがひどかった事から。)

📌 まとめ

小惑星「イトカワ」から物質サンプルを持ち帰るという世界初のミッションを成し遂げた「はやぶさ」。その背景にあった技術者達の挑戦を描いた本作は、どんな困難にも立ち向かう事の大切さを訴えるものでした。その偉業を盛大に伝えるのではなく、一人一人の想いを丁寧に描き、ドラマとして大変見応えがありました。果てもなく広大な宇宙に想いを馳せる、素晴らしい作品でした。

➡ 関連ページ: [これまでのひので映画大使](#)

➡ 関連ページ: [ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係
電話042-597-0511(内線544)

[◀ 前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町平井2780番地 電話 042-597-0511(代表)
Copyright © 2011 Hinode Town All Rights Reserved.

[サイトマップ](#) | [このサイトについて](#)